

10月2日(水)、生徒の登校時のことでした。

いつも通り校門付近に立って、「おはよう」と挨拶を交わして生徒を迎えていると、高校女子生徒が(大変申し訳ない、何年生で誰なのかわかりませんでした)、「校長先生、おはようございます。奨学金が振り込まれていました。ありがとうございます」と言ってきました。「ん?」と思いながらも、「いえいえ。有効に使ってくださいね」ととっさに返答していました。「鈴峯奨学金」か「多山報恩会奨学金」のいずれかの奨学金です。

これまで(在職6年半)の間に、こうして奨学金受給のお礼を言ってきたのは3人目だったはずです。この行為が自主的だったのか、保護者の方が後押ししたのか定かではありませんが、とても微笑ましく、素晴らしいことだと感じています。また、ご家庭における我が子への躰の賜物なのだとも思います。



(民権中学校の生徒が英語で学校紹介をしました。)

「出会い は 成長の種なり」

10月15日(火)から19日(土)まで、高校2年生が沖縄コース、東北・北海道コース、カンボジアコース(3コースから1つを選択)へ、中学3年生が台湾へと、それぞれ研修旅行(本校では修学旅行を研修旅行と称しています)を実施しました。このたび私は中学3年生の台湾へ同行しました。その様子を記します。

15日(火)、広島駅に6時15分に集合。随分と早い集合時間にもかかわらず、誰一人遅れることなく51名が揃いました。素晴らしい研修旅行になるに違いないと確信しました。その後、新幹線で博多駅に移動し、さらに福岡空港へ。昼過ぎに台北桃園空港に着きました。30度を超える気温だということでしたが、思ったより暑さを感じることはありませんでした。この日は「故宮博物館」へ行き、台湾の貴重な文化財を見学することができました。夕食は「飲茶」。台湾の味に舌鼓を打ちました。とても美味しかったです!!

16日(水)は、日本語を学ぶ地元大学生の帯同による「班別自主研修」。台湾の歴史、交通、食などの様々なテーマに分かれ、地下鉄一日乗車券を使って研修を行いました。私も大学生と共に市内を散策しました。「国立台湾博物館」では生徒たちと遭遇し、真剣に学んでいる姿に安心しました。また、雙連という繁華街に行くと、買い物をしている班と遭遇。昼時だったので、「何か食べたの?」って聞くと、「今からです!」と元気な返事が返ってきました。夕食は「モンゴリアン料理」。焼肉、しゃぶしゃぶなどの食べ放題。生徒たちの素晴らしい食欲に感動でした。

17日(木)、いよいよ台北市立民権国民中学校との学校交流です。バスから降りると、日本と台湾の国旗(小旗)を振る生徒が校門から教室まで道を為して歓待していただき、「ニイハオ」「ハロー」と、中国語と英語での挨拶に圧倒されました。



(4日間案内してくださったガイドさんにお礼の挨拶。)

交流会は民権中学校の生徒が司会をする、生徒主体の会となりました。本校からは学校紹介に加え、バトン部の2人が演技を披露し、拍手喝采を浴びました。その後、体験授業(ビリヤード、イカの解剖、漢方ミルクティー作りなど)に参加し、給食(バイキング形式)をいただきました。そして、学校を後にするときも盛大な見送りをしていただき、感謝感激の訪問、交流となりました。

午後は、「十分天燈上げ」の体験。願い事を書いてランタンを天に向けて飛ばしました。さらに、映画「千と千尋の神隠し」を彷彿させる「九份」観光。あまりにも細く急な石段、夕闇に輝く提灯は幻想的な世界を醸し出していました。

18日(金)、「忠烈祠」などの名所旧跡を見学して台北桃園空港へ。博多で1泊して、19日(土)昼、バスにて広島駅に無事に帰着しました。

さて、台湾という異文化体験は、生徒たちに何をもたらしたのか。異なる文化を学び知れたこと、異なる文化を持つ人々と交流したことを通じて間違いなく視野が広がったことでしょう。また、日本(広島)の良さについて再認識する機会にもなったことでしょう。異文化体験の答えがすぐに出なくても、時間の経過と共に経験で得た想いが沸き立つに違いありません。成長の一步です。